

二〇二一年度

入学試験問題

(二月一日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

—

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

① 食の工業化が進む以前、イタリアの食文化は、季節や気候と結びついた、ゆっくりとした農業のリズムに従ったものだった。これは日本をはじめとする他の国でも事情は同じだっただろう。保存食の作り方も、乾燥させる、塩漬にする、発酵させるといった、時間を要するものだけ。いってみれば「スロー」なシステムだった。そして、場合によっては、うまくいかないこともあった。

それでも、食物を「(あ) (あ) (あ)」という力を手に入れたことは、人類にとっては大きな進歩だった。そこには、単に手に入れた食物を貯蔵できるようになっただけに留まらない利点があった。それによって人は、食物を交換することができるようになり、やがて市場のような場所で売り買いすることもできるようになった。そして食物は、作られ、獲られた場所から、かなり遠いところまで運ばれるようになった。

だが、産業革命以前の社会では、食物の旅は、常に「スロー」なものだった。ほとんどの食品・食材は、それが作られた場所から一番近い市場などの交換場所に運ばれるのが普通だった。ごく限られた食材が、中央アジアの草原を渡る隊商や、地中海世界と、アフリカやアジアとを結ぶ海上交通によって運ばれ、ごく富裕な人々の口に入ることもあったけれど、いずれにしてもその流通の仕方が非常にスローだったことに変わりはない。

この状況が、何千年もの間続いた。しかし、一八〇〇年代に起きた産業革命によって、② すべてが急激に変わった。 食品を遠くへと運ぶ交通機関が劇的に進歩した上、食品の作られ方にも革命が起きた。そして、食物をめぐらすすべてのことが「ファスト」になった。その速度は、どんどん速くなっていった。

だが、食の「ファスト」化が、必ずしもネガティブな現象だったとはいえないだろう。冷蔵庫や、低温殺菌や、真空パッケージといった、食品を長く保存し、流通させる方法が一切ない世界に僕らは戻ることができないし、その方がよかったと今言ったところで何の意味もない。

二〇世紀の後半に生まれた僕だけれど、家庭に電気冷蔵庫というものが普及し始めたころのことを、まだ憶えている。

ア 僕はよく母に言いつけられて、おばあさんのために買い物をしてきてあげた。

イ 僕が買ってきた食べ物、おばあさんは風通しのいいバルコニーの、日陰かげに置いてある、一種のたんすみたいな所にしまっていたのだけれど、問題が二つあった。

ウ 僕がまだ小さいころ住んでいた同じアパートに、脚あしが弱ってよく歩けなくなったおばあさんが一人いた。

エ でも、おばあさんの家にはまだ冷蔵庫がなかったので、肉でもチーズでも、ほんの少しずつの量を、頻繁ひんぱんに買ってきてあげなくてはならなかった。

夏と、猫ねこだ。

マリアさんという名のおばあさんは、二匹ひきの猫を飼っていた。マリアさんが食べ物を買ってあるたんすの引き出しが、完全に閉まっていなくて、いたずら猫たちは、引き出しを自分で開けて、おばあさんが食べるはずだった昼食や夕食を、勝手に食べてしまうのだ。そのころは今ののように、飼い主が買ってくる缶入りのキャットフードしか食べない猫なんていなかった。引き出しに入っている物は何でも消えてしまった。それでも猫たちには、ねずみを捕るという立派な仕事があったので、マリアさんも彼らかれを追い出すことなどできなかつたのだ。そして夏になると、ほとんどすべての生鮮食品は、翌日までとっておくことができなくなつた。

こうしたマリアさんの境遇は、二〇世紀前半より前に生きていた人々にとつては、（い）（似たようなもの）だつた。肉も魚も卵も、野菜でさえも、保存することはきわめて難しかつた。生鮮食品はどれもみなすぐに悪くなつてしまひ、衛生上の問題が起きた。食品についている、あるいは含まれる細菌が原因で、深刻な病気になることは珍めずしくなかつた。

ついでに言えば、アルミホイルも、ラップも、タッパーも、お皿を洗う石鹼けんさえもなかつた時代の衛生状況は、とても現代人に耐えられるものではなかつた。

それでも私たちは、昔の方が、食を巡る環境がよかつたと言ひ切れるだろうか？ 手作りの、干したり、塩漬けにしたり、発酵させたりしただけの保存食——しばしば衛生上の問題が生じた——だけを食べていた時代の人の方が、健康で幸せだつたと言ひ切れるだろうか？

実際の話、現代の世界でも、貧しく食料が乏しい国々では昔のような……あまりにも昔どおりの「古過ぎる」やり方で作つた食料を食べるしかない人々がほとんどなのだ。それらの食品は、スローフードの哲学に、まさしく合致するものであつたりする。だからとい

て、彼らの食生活を「貧しく美しい」と言えるだろうか？

そしてその一方、経済先進国には「新し過ぎる」やり方で作られた食材ばかりが出回っている。危険な薬剤や遺伝子組み換え技術を使って、効率よく大量に作られた食品が、地球環境を破壊するばかりでなく、多くの農業国の社会システムを破壊している。我々の贅沢な食生活は、地球と、^③ 貧しい国の人々を搾取することによって成り立っている、といっても過言ではない状況がある。

要するに、食の問題に関していえば「ファスト過ぎる」ことも「スロー過ぎる」ことも、両方間違っているということなのだと思う。問題の根っこは「ファスト」か「スロー」かではなく、食べ物が健康的であるかどうか、そして、（　　う　　）に受け入れられる、いわばまっとうな作り方で生産されているものかどうか、という点にあるのだろう。

だから私たちは自分の国の政府に対して、食料の生産によって自然が破壊されることのないような、そしてどこかの国の人が搾取され、社会が破壊されることのないような政策をとるように強く働きかけていかななくてはいけない。先進国の人々の口に入る商品作物を、大量に生産するために、もともとその土地にある自然が破壊されることがないように、そして自分の口に決して入らない食べ物を作るために過酷な労働をさせられながら、毎日の食事にも事欠くような人たちがいなくなるように、国際政治やグローバル経済の仕組みを変えていくよう、政治家や経済人たちにさまざまな方法で（　　え　　）をかける必要がある。

（中略）

よりよい世界、^④ 僕が本当に夢見ている未来の世界は、冒頭で出てきたようなエチオピアの十六歳の少女が、同じ年ごろの日本人やアメリカ人のように、それが「スロー」なものにして「ファスト」なものにして、自分の食べる物を自由に選べる世界だ。そしてできることならば、彼らがみな、できるだけ自然な食べ物を口にできる世の中を望んでいる。そうすれば、食べ物は、我々の母なる地球とその子どもたちにとって、本当に「良きもの」となってくれることだろう。

（ファブリツイオ・グラスセツリ「ねじ曲げられた『イタリア料理』」より）

（注）「冒頭で出てきたようなエチオピアの十六歳の少女」：冒頭で筆者はおしゃれなレストランで美味しいものを食べているエチ

オピアの少女がいる世界を「理想」とし、現実にはエチオピアの栄養不足が深刻でそのような「理想」にはほど遠いことを悲嘆している。

問一 文中の の中のア～エを正しく並べ替えなさい。

問二 — 線部①「食の工業化」とありますが、どういうことですか。「～ようになったこと。」に続くかたちで本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

問三 本文中の（ あ ）にあてはまる言葉を、本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問四 — 線部②「すべてが急激に変わった」とありますが、変わる前はどのような状況だったのですか。次のア～エのうち「変わる前の状況」には○、そうでないものには×を答えなさい。

- ア 気候が不安定な土地でも、農業の知恵^えを結集して可能な限り多くの食品を生産できるように工夫していた。
- イ 機械の力を借りない手作りの方法で食品を保存していたため、時間がかかりうまくいかないこともあった。
- ウ 大陸間が海上貿易によって結ばれ、一部の富裕層には限られた食材が遠くから時間をかけて運ばれていた。
- エ 食料に乏しい一部の国々だけが、食品を流通させられずに、ほぼ自給自足の食生活を送らざるをえなかった。

問五 本文中の（ い ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手も足も出さず
- イ 有無を言わず
- ウ 根掘り葉掘り
- エ 多かれ少なかれ

問六 ———線部③「貧しい国の人々とを搾取することによって成り立っている」とありますが、次のア～エの中から「貧しい国の人々」の「搾取」にはあたらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アフリカの広大な国土を利用したトウモロコシ栽培は、土を一切休ませずに耕作を繰り返したため、土地の生産能力が低下した。現在は砂漠化の進行が食い止められず、土地を追われる集落が急増している。
- イ 東南アジアの豊富な水産資源の中でも、エビは世界中に輸出されるほど価値が高まっている。しかし、先進国の水産会社が出す漁船では、途上国の人たちに安い賃金で一日二十時間もの労働を強制している。
- ウ 極寒のベーリング海で行われるカニ漁は、荒れ狂う海で一か月以上もほぼ不眠不休で働き続ける過酷な労働である。カニは高値で売買されるため、一年分の収入を稼ぐ漁師も少なくはないが、死の危険と隣り合わせだ。
- エ 身体によく安価で栄養価も高いとされるバナナは、温暖な土地で盛んに栽培されているが、害虫に弱く栽培が難しい。そこで空中から農薬を散布したところ、皮膚病や呼吸器系の病気などで苦しむ人が多発している。

問七 本文中の（ う ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世界的
- イ 道徳的
- ウ 現代的
- エ 基本的

問八 本文中の（ え ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言葉
- イ 面倒
- ウ 拍車はく
- エ 圧力

問九 ——線部④「僕が本当に夢見ている未来の世界」とありますが、どのような世界ですか。「世界」に続くかたちで二十字以内で説明しなさい。

問十 様々な国際問題のなかで、関心のあるものを一つ挙げて、あなたの考えを二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

ニネンマエニユネスコノムケイブンカイサンニトウロクサレタナマハゲハアキ

タケンノデントウギョウジデス。マイトシオオミソカノヨルニオニノメンヲカ

ブツオトコノヒトガイエヲマワリワルイコハイナイカサガシマス。コトシハ

コロナタイサクデキボヲシユクシヨウシイエノナカニハイラズニブンカラデン

シヨウシヨウトスルチクモアルソウデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 米俵を持ち上げる。
- (2) 八百屋におつかいに行く。
- (3) 冬至にゆず湯に入る。
- (4) 平静を装う。
- (5) 病は気からと奮い立たせる。
- (6) 伝家のホウトウを抜く。
- (7) コウセキを掘り出す。
- (8) ロウホウがとどく。
- (9) エンドウから応援する。
- (10) ヒキヨウをたずねる。

四

次の(1)～(5)の()にあてはまることばを、あとのア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 欠点を何度も注意されて()が痛い思いだった。
- (2) リーダーを務めた企画が無事に成功に終わって()の荷がおりた。
- (3) あの人は笑顔の裏で何かをたくらむような()の黒さがある。
- (4) 引退してからも()を貸してくれと頼まれて面倒を見た。
- (5) 前回の試合の時よりも、確実に()があがったのを実感している。

ア 腕うで イ 腹
ウ 肩かた エ 胸
オ 耳